

## キリストは死の縄目につき BWV4 歌 詞

### 1.キリストは死の縄目につき シンフォニー

### 2.キリストは死の縄目につき 合唱

キリストは我らの罪を負うために死の縄目につき、  
よみがえり、我らに命を与えられた。  
我らは喜び、生きん。神をたたえて感謝し、ハレルヤ。

### 3.死に勝ったひとはいない アリア・二重唱

死に勝った人はいない。  
それはわれらの罪のためであった。  
罪のない人はいない。死はすぐに来て力をふるい  
われらを死の国につないだ、ハレルヤ。

### 4 イエス・キリスト 神のみ子 コラール

イエス・キリスト神の御子  
わたしたちのために来られた  
またすべての罪を除いた。こうして死の力が失せた。  
すべての力が失せた、死は跡形もなくなり  
死が死の刺をなくした、ハレルヤ。

### 5.不思議な闘いだった 三重唱コラール

それは死といのちの不思議な闘いだった。  
死といのちが闘い、いのちが死を呑み、  
いのちが死に勝利した。  
聖書が告げているように、  
キリストの死が私たちの死を呑み込み  
恥、恥、死の恥受けた、ハレルヤ。

### 6 まことの過ぎ越しの小羊 コラール編曲

神がそなえられた、まことの過ぎ越しの小羊  
十字架にあげられ、愛の火で焼かれた。  
血しおは戸口に記され、  
この血は我らの戸口に記され  
これを信仰が死にかざせば  
死はなににもできない、ハレルヤ。

### 7.ゆえにわれらは祝う 二重唱

ゆえにわれらは喜び、幸せになって心から祝う。  
主が太陽のように 恵みを輝かせ、  
恵みの輝きにより 我らの心を照らし、  
罪の闇は消え失せた、ハレルヤ。

### 8.われらは復活のパンを食して コラール

われらは復活のパンを食して生きる。  
古いパンだねでなく、めぐみの言葉により  
パンなるキリストを食し、魂を養い、  
信仰によりて ハレルヤ。

メロ

初演 1708年 復活祭

聖書 1 コリント5:6 ~ 8

マルコ16:1 ~ 8 (キリストの復活)

歌詞 M.ルターの作になる「キリストは死の縄目につきたもう」

の変奏で8曲を統一した、コラール変奏曲とも言われる。  
合唱を第1,4,7曲、二重唱と三重唱を第2,6節、独唱を第3,5に配置した。

ヘルムート リリンク

(Hermuth Riling 1933~)

本曲のイラストに登場してもらいました。



ドイツ 中部 シュツトガルトのバッハ

コレギウムを中心に教会音楽、特にバッハのカータータなど演奏指揮、若者育成に尽くした。最近引退。30年ほどむかし、福岡バッハコレギウムに入会し、10年ほど多くのことを教わった。主宰者の武田又彦先生に、バッハのCDなど、どのようなものがあるのでしょうか？と聞くと、リリンクを勧めてくださった。リリンクが開いた日本での講習会で指揮法のコースをとったこと、最後に模範演技で指揮者に選ばれた話を聞いて、リリンクに好感を持った。当時、バッハカンタータ全集のCDが出ていたので、購入した。CD40枚くらいを何度か聞いた。そのうちmp3(media player3)という音声圧縮技術が普及して、1cm四角ほどのマイクロSDに記録させて、プレイヤーで持ち歩いて聞けるようになった。曲毎に分けて検索して、聴ける。昨年Youtubeでリリンク指揮のクリスマスオラトリオを聴きながら、人の書き込みを読んでいたら、「嫌だミタラーミュージックみたいだ」というのにびっくりしてしまった。導入部の太鼓の連打のことだろうか？とわたしには思われた。それから、トマス教会少年合唱団の同じ曲、ベルギーのヘレヴェーの指揮する曲も聞くようになった。演奏の特徴がわかるようになった。バッハ伝統のトマス合唱団は変声期前の少年たちで素朴が売りでしょうか。ヘレヴェーは声を震わすプラートを避け、当時の古楽器復元、少人数、休符をしっかりととり、ソーメン流しのようにならないように、節ごとの言葉を大切に、澄明な音楽となっている。礼拝堂そのものが音響がよくスピーカーになって響くところでは、ビブラートはよくないです。リリンクは、ドイツ本場のバッハという感じで、確かに一時代を築いた大御所なのでしょうが、これぞ正統という気配が啓蒙的に受け取られ、「ミタラーミュージック」のようになっているのではないかと、わたしには思われている。東西ドイツ統合以来、各地方都市のバッハ興隆はYoutubeで身近に見られる。わたしは2012年に、「ACTH分泌低下症」と診断され、自宅のできる仕事と考え、バッハの合唱作品の中のオラトリオ、ミサ曲、受難曲などの大曲を終えて、あとカンタータ約200曲を手がけている。おそらく数少ない日本語訳合唱が聴けるというのが目標です。※歌詞のページが余ったので、わたしの感想、目標としてるところを記しました。読んでいただいております。ご意見はこちらへ。jyamasr@gmail.com